

7 CM 管理ツール

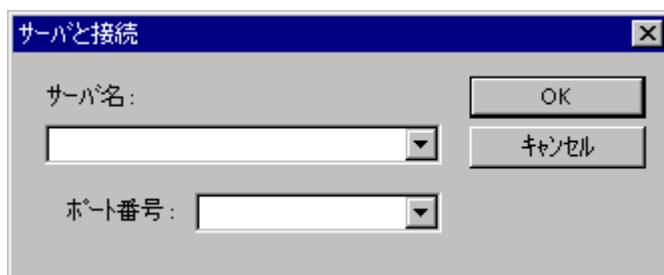
7.1 CM 管理ツールの起動

「スタート」メニューから[プログラム]→[ESMPRO_CM]→[CM管理ツール]を選択することによりCM管理ツールが起動されます。

7.2 サーバと接続

CM管理ツールを起動すると「サーバと接続」ダイアログボックスが表示されます。

「サーバと接続」ダイアログボックスにCMマネージャが動作しているサーバ名と接続に使用するポート番号を指定します。



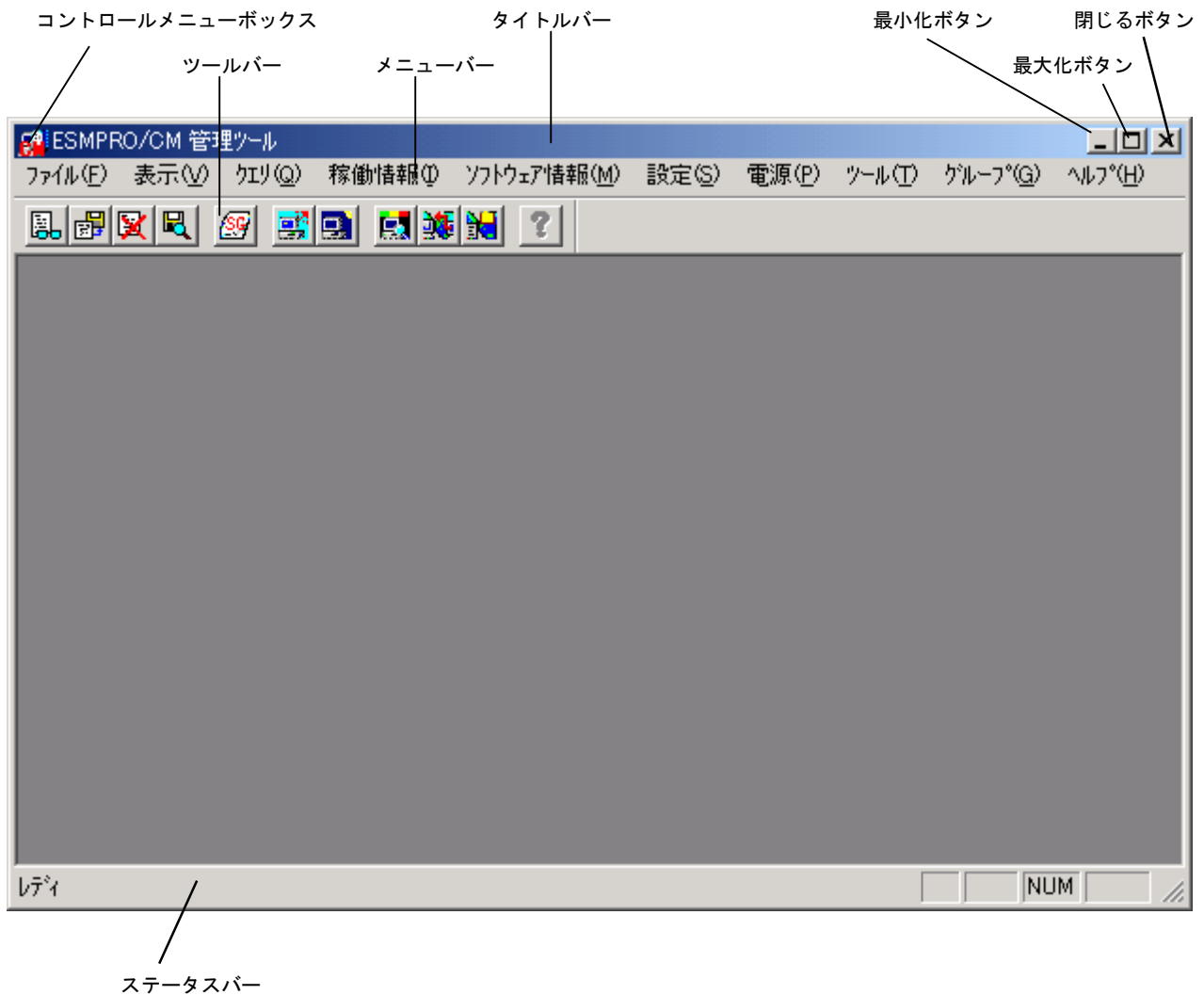
*** サーバ名**

CMマネージャが動作しているサーバの名前を入力します。
なにも入力しなかった場合は自マシンになります。

*** ポート番号**

CMマネージャとの通信に使用するポート番号を入力します。
なにも入力しなかった場合は規定値(14370)になります。

7.3 メインフレーム



■コントロールメニューボックス

このボックスをマウスで左クリックすると、ウィンドウに対する操作を行うメニューが表示されます。コントロールメニューでは、ウィンドウの大きさの変更や移動、アプリケーションの切り替え、ウィンドウを閉じるなどの操作が行えます。

■タイトルバー

タイトルが表示されます。

■最小化ボタン

CM管理ツールのウィンドウをアイコンの状態にします。

■最大化ボタン

CM管理ツールのウィンドウサイズを画面全体に広げます。また、画面全体に広がった状態で押すと、元のウィンドウサイズに戻ります。

■閉じるボタン

CM管理ツールを閉じます。

■メニューバー

メニューバーにはCM管理ツールで利用できる機能がグループ別に示されています。それぞれの機能はドロップダウンメニューで選択できます。

■ツールバー

CM管理ツールで全般的に使用する機能をボタンとして表示します。ボタンを選択すると対応した機能を実行します。

■ステータスバー

作業中の機能説明等を表示します。

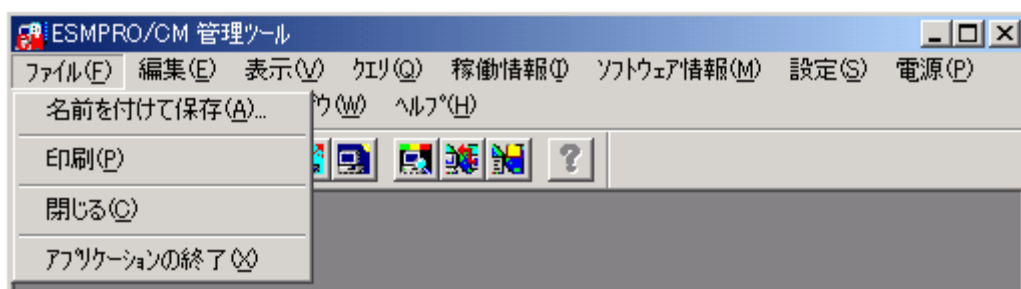
7.4 メニュー

次の10種類のメニューがあります。

- 1) ファイル
- 2) 編集
- 3) 表示
- 4) クエリ
- 5) 稼働情報
- 6) ソフトウェア情報
- 7) 設定
- 8) 電源
- 9) グループ
- 10) ツール
- 11) ヘルプ

それぞれのメニューの機能について説明します。

7.4.1 「ファイル」メニュー



- 「ファイル」・「名前を付けて保存」

クエリの実行結果をCSV(カンマ区切り)形式のファイルまたはMDBデータベース^{※1}として保存することができます。

(クエリの実行結果にフォーカスがある場合のみメニューに表示されます。)

注1:MDBデータベースへの保存はMicrosoft® Accessがインストールされている場合のみ使用可能です。

- 「ファイル」・「印刷」

クエリの実行結果を印刷します。

(クエリの実行結果にフォーカスがある場合のみメニューに表示されます。)

- 「ファイル」・「閉じる」

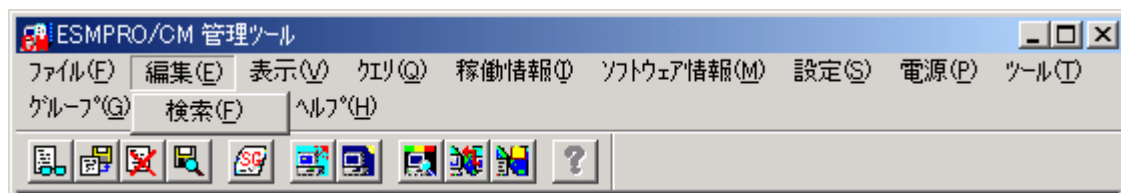
CM管理ツール内のサブウィンドウを終了します。

(CM管理ツール内にサブウィンドウがある場合のみメニューに表示されます。)

- 「ファイル」・「アプリケーションの終了」

CM管理ツールを終了します。

7.4.2 「編集」メニュー

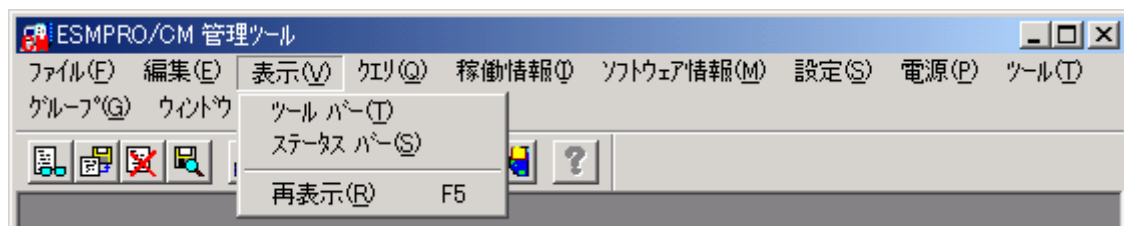


- 「編集」・「検索」

クエリの実行結果に対して検索を行います。

(CM管理ツール内にサブウィンドウがある場合のみメニューに表示されます。)

7.4.3 「表示」メニュー



- 「表示」・「ツールバー」

ツールバーの表示／非表示を切り換えます。

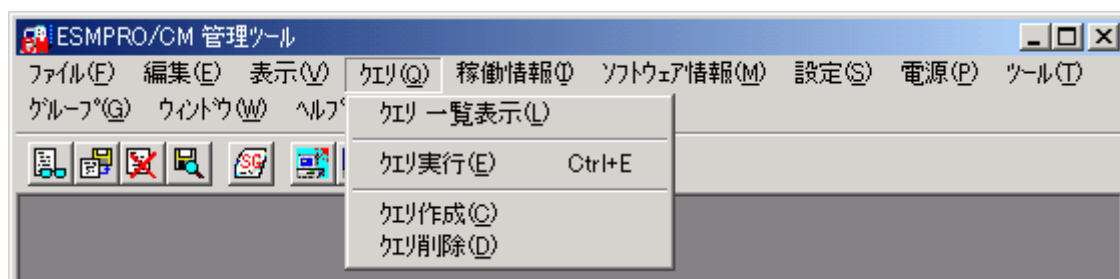
- 「表示」・「ステータスバー」

ステータスバーの表示／非表示を切り換えます。

- 「表示」・「再表示」

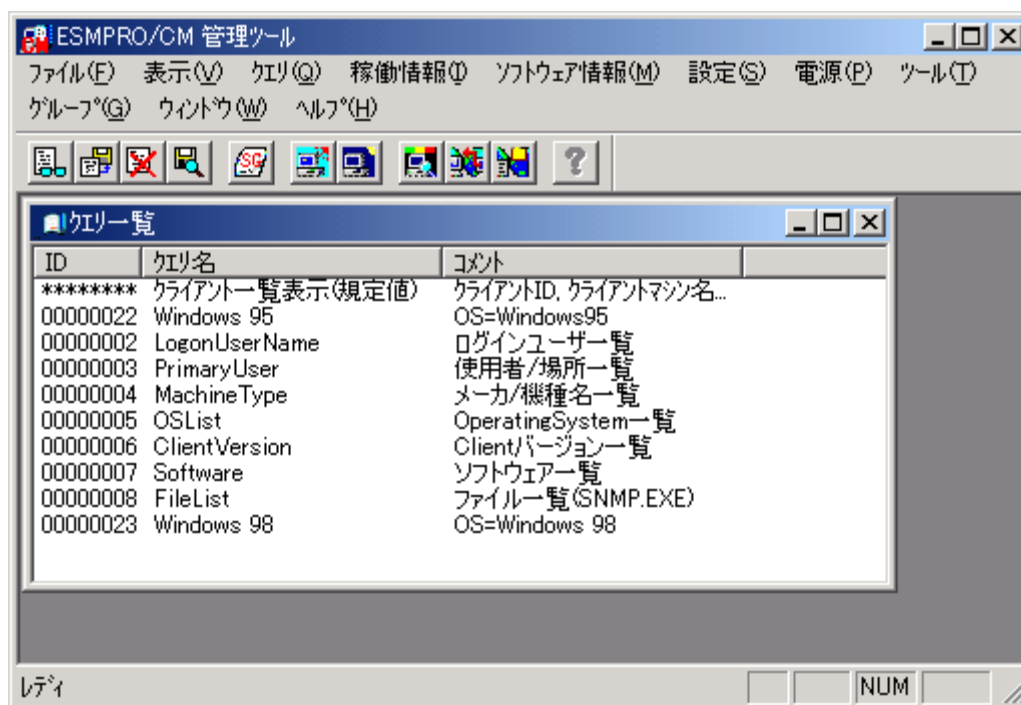
表示を最新の状態に更新します。

7.4.4 「クエリ」メニュー



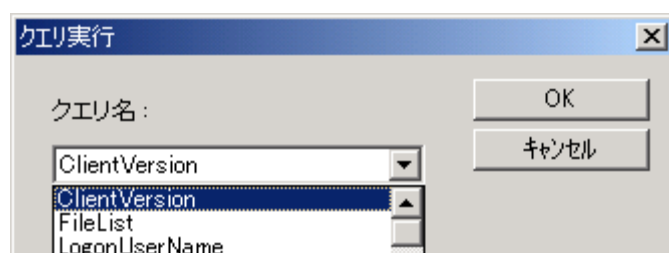
- 「クエリ」・「クエリ 一覧表示」

ユーザが作成／登録したクエリを一覧表示します。



- 「クエリ」・「クエリ実行」

ユーザが作成／登録したクエリを実行し、結果を表示します。



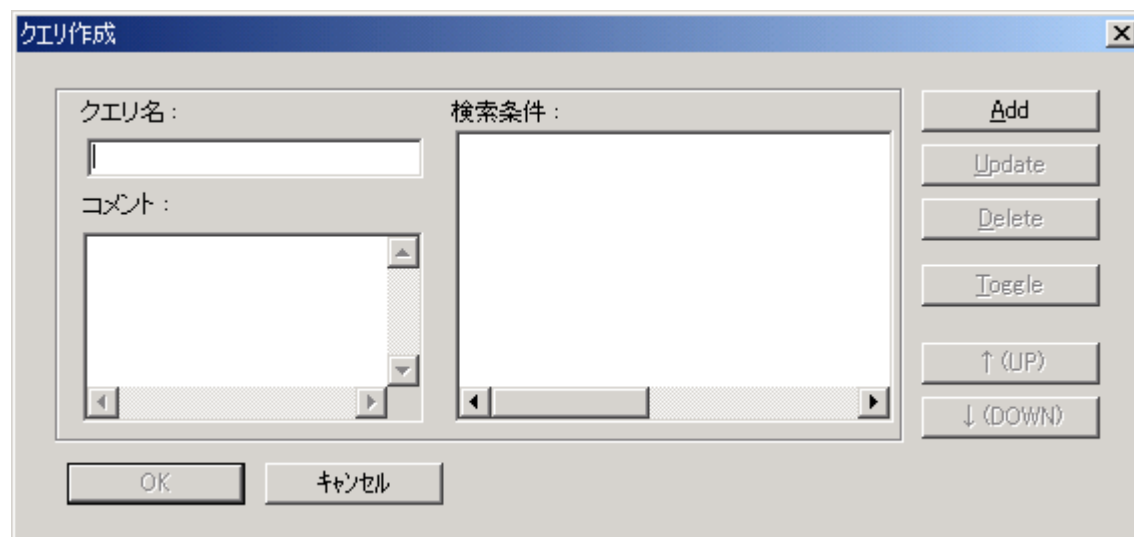
* クエリ名

実行するクエリを選択します。



● 「クエリ」・「クエリ作成」

CMクライアントが収集したインベントリ情報を検索するためのクエリを作成します。



* クエリ名

作成するクエリを識別するための名前です。ユーザが任意に指定することができます。

* コメント

作成するクエリにコメントを添付することができます。

*** 検索条件**

ClientManagerの管理データベースに格納されているインベントリ情報を検索するための条件式が表示されます。条件式は「条件式の設定」ダイアログボックスで設定します。

詳しくは、「14.2.2 クエリ(検索)」を参照してください。

*** Addボタン**

ClientManagerの管理データベースに格納されているインベントリ情報を検索するための条件式を追加します。

*** Updateボタン**

ClientManagerの管理データベースに格納されているインベントリ情報を検索するための条件式を更新します。

*** Deleteボタン**

ClientManagerの管理データベースに格納されているインベントリ情報を検索するための条件式を削除します。

*** Toggleボタン**

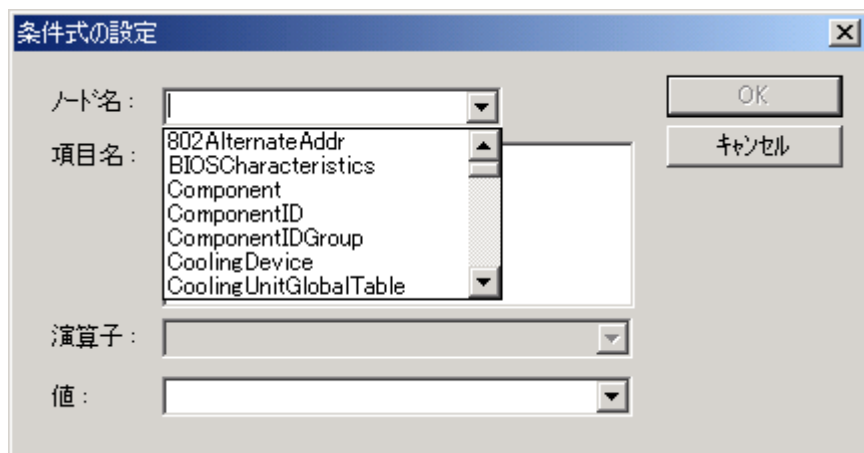
ClientManagerの管理データベースに格納されているインベントリ情報を検索するための条件式の結合演算子(AND/OR)を変更します。

*** UPボタン**

ClientManagerの管理データベースに格納されているインベントリ情報を検索するための条件式を上方に移動します。

*** DOWNボタン**

ClientManagerの管理データベースに格納されているインベントリ情報を検索するための条件式を下方に移動します。



*** ノード名**

検索する情報のグループを選択します。

*** 項目名**

検索する情報の項目を選択します。

*** 演算子**

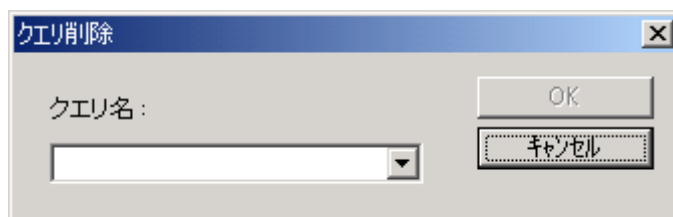
比較する時に用いる演算子 (=,>,等) を指定します。

*** 値**

比較する時に用いる値を指定します。

● 「クエリ」・「クエリ削除」

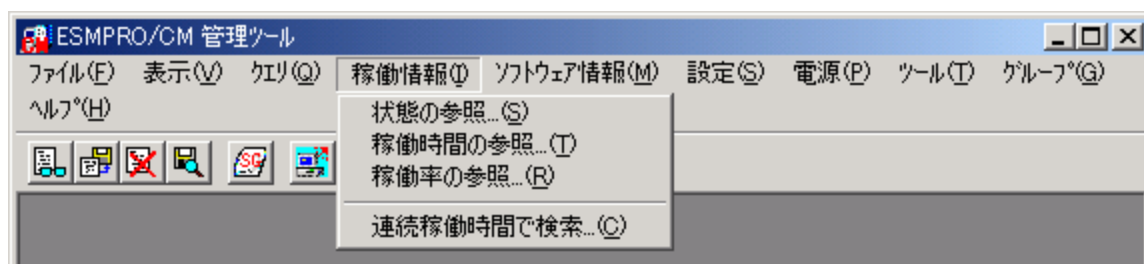
ユーザが作成／登録したクエリを削除します。



*** クエリ名**

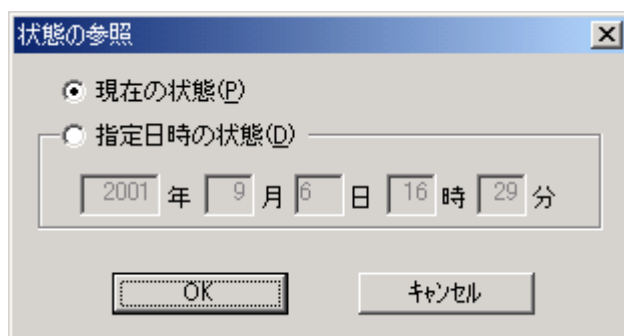
削除するクエリを指定します。

7.4.5 「稼働情報」メニュー



- 「稼働情報」・「状態の参照」

クライアントの状態を表示します。



- * 現在の状態

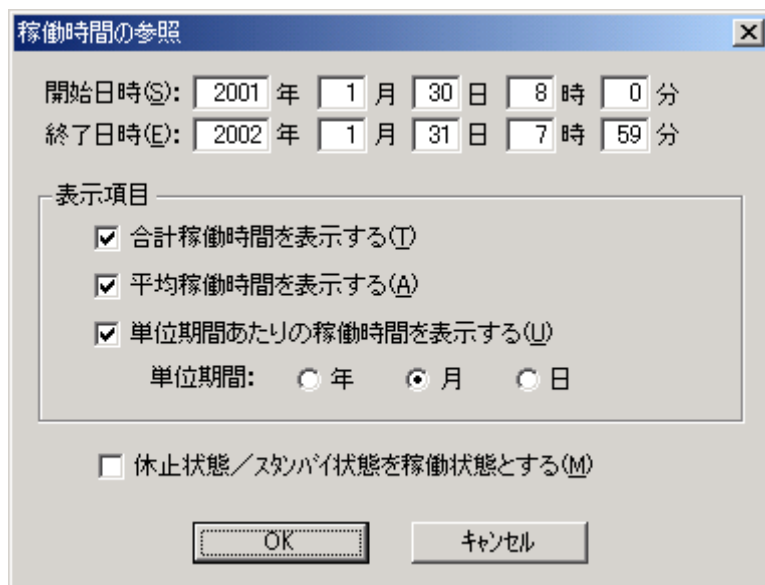
クライアントの現在の状態を表示するときに指定します。

- * 指定日時の状態

ある日時におけるクライアントの状態を表示するときに指定します。

- 「稼働情報」 ・ 「稼働時間の参照」

クライアントの、指定期間における稼働時間を表示します。



The dialog box titled "稼働時間の参照" (Reference of Working Hours) contains the following elements:

- 開始日時(S): 2001 年 1 月 30 日 8 時 0 分
- 終了日時(E): 2002 年 1 月 31 日 7 時 59 分
- 表示項目 (Display Items):
 - ☒ 合計稼働時間を表示する(T) (Display total working hours)
 - ☒ 平均稼働時間を表示する(A) (Display average working hours)
 - ☒ 単位期間あたりの稼働時間を表示する(U) (Display working hours per unit period)
- 単位期間 (Unit Period):
 - ☐ 年 (Year)
 - ☒ 月 (Month)
 - ☐ 日 (Day)
- ☐ 休止状態／スタンバイ状態を稼働状態とする(M) (Treat standby status as working status)
- Buttons: OK, キャンセル (Cancel)

- * 開始日時

稼働時間を表示する期間の、開始日時を指定します。

- * 終了日時

稼働時間を表示する期間の、終了日時を指定します。

- * 合計稼働時間を表示する。

稼働時間の合計を表示するときに指定します。

- * 平均稼働時間を表示する。

稼働時間の平均を表示するときに指定します。

- * 単位期間あたりの稼働時間を表示する。

指定した期間ごとの稼働時間を表示するときに指定します。

- * 休止状態／スタンバイ状態を稼働状態とする。

休止状態／スタンバイ状態であった時間を、稼働時間に含める場合に指定します。

- 「稼働情報」・「稼働率の参照」

クライアントの、指定期間における稼働率を表示します。

稼働率の参照

開始日時(S): 2001 年 1 月 30 日 8 時 0 分
 終了日時(E): 2002 年 1 月 31 日 7 時 59 分

表示項目

☒ 平均稼働率を表示する(A)
☒ 単位期間あたりの稼働率を表示する(U)

単位期間: ☐ 年 ☒ 月 ☐ 日

稼働率算出設定

稼働率 = $\frac{\text{期間中の総稼働時間}}{\text{1日の基準時間(B) } 8 \text{ 時} \times \text{期間の休日を除く日数}}$

☐ 休止状態／スタンバイ状態を稼働状態とする(M)

- * 開始日時

稼働率を表示する期間の、開始日時を指定します。

- * 終了日時

稼働率を表示する期間の、終了日時を指定します。

- * 平均稼働率を表示する。

稼働率の平均を表示するときに指定します。

- * 単位期間あたりの稼働率を表示する。

指定した期間ごとの稼働率を表示するときに指定します。

- * 休止状態／スタンバイ状態を稼働状態とする。

休止状態／スタンバイ状態であった時間を、稼働状態とみなして、稼働率を計算する場合に指定します。

- 「稼働情報」 ・ 「連続稼働時間で検索」

現在稼働中のクライアントのうち、指定した稼働時間に一致するクライアントを検索します。

連続稼働時間でクライアントを検索

条件に一致する、現在稼働中のクライアントを検索します。条件が指定されなかった場合、現在稼働中の全クライアントを検索します。

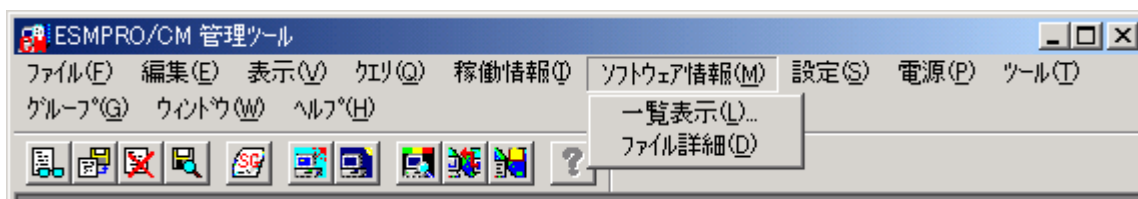
☐ 分 ≤ 連続稼働時間 ≤ 分

OK キャンセル

- * 連続稼働時間

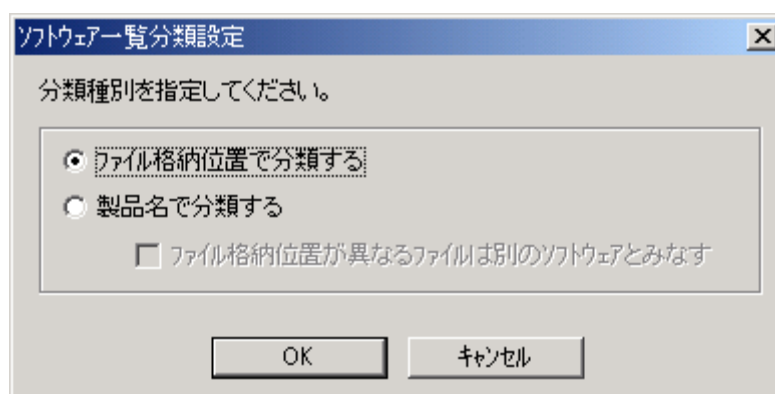
稼働時間の範囲を指定します。下限値のみ、上限値のみ、または、その両方を指定することができます。下限値、上限値ともに指定しなかった場合は、現在稼働中の全てのクライアントを検索します。

7.4.6 「ソフトウェア情報」メニュー



● 一覧表示

クライアントのソフトウェア一覧を表示します。ソフトウェア一覧を表示するには、あらかじめ、「設定」メニューの「クライアント機能設定」にて「ファイル名一覧を収集する」をチェックし、クライアントにおけるファイル名一覧を収集しておく必要があります。



* ファイル格納位置で分類する

ソフトウェアを、そのファイルが格納されているフォルダで分類します。同じフォルダに格納されているファイルは、一つのソフトウェアを構成するものとみなします。

* 製品名で分類する

ファイル情報の一つである製品名で、ソフトウェア进行分类します。製品名を持たないファイルは、一つにまとめます。

* ファイル格納位置が異なるファイルは別のソフトウェアとみなす

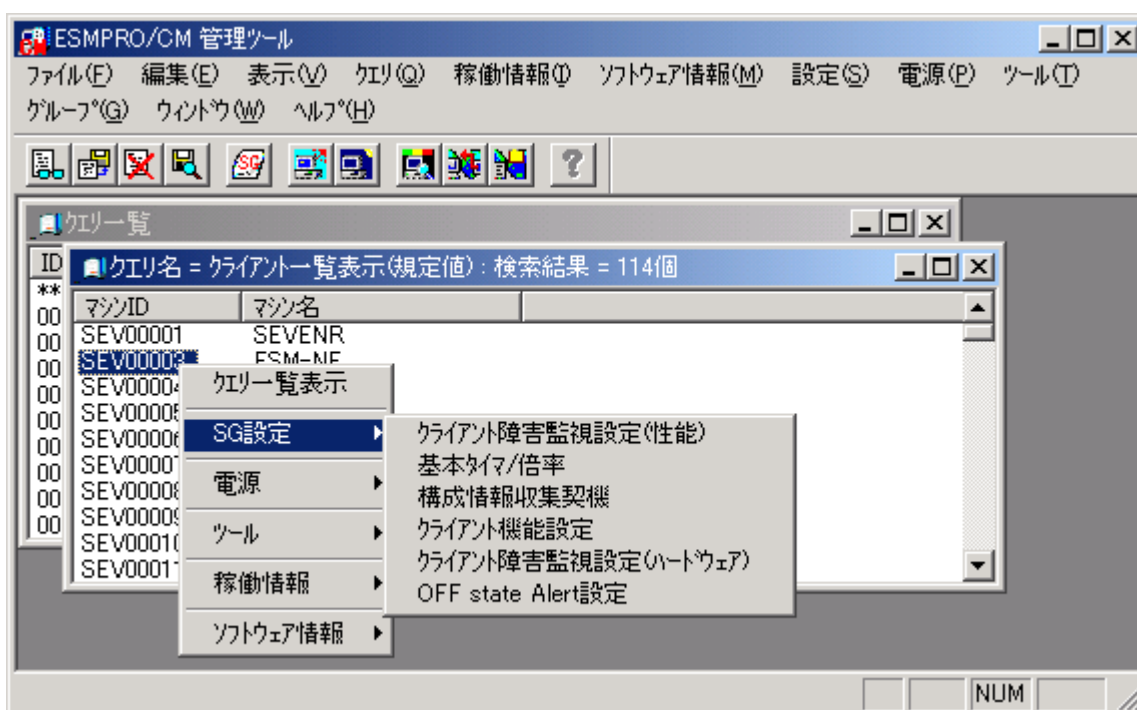
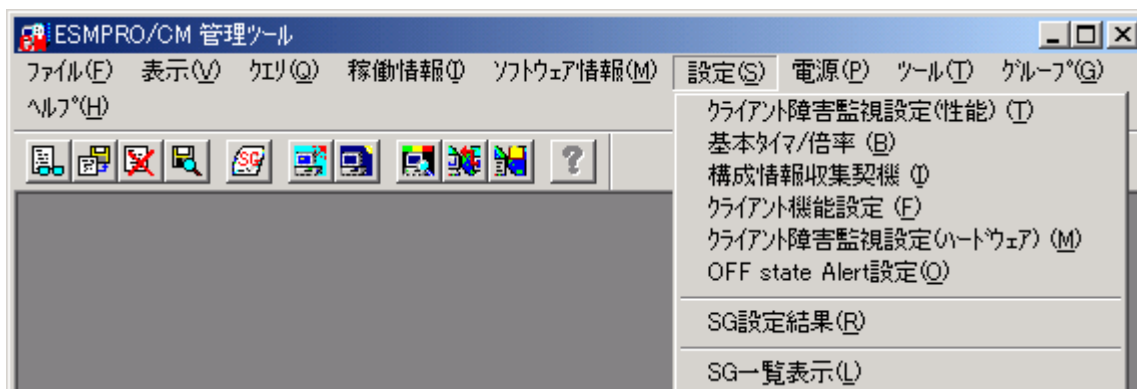
製品名が同じでも、そのファイルが格納されているフォルダが異なる場合は、別のソフトウェアとみなします。つまり、同じ製品名を持ち、同じフォルダに格納されているファイルを、一つのソフトウェアとして分類します。

● ファイル詳細

ソフトウェア一覧で選択されたソフトウェアを構成する、ファイルの詳細情報を表示します。



7.4.7 「設定」メニュー



● 「設定」・「クライアント障害監視設定(性能)」

クライアント障害監視設定ダイアログボックスにて、クライアントにおける障害監視間隔、しきい値を設定します。ここで設定した値は、CM管理ツールのクエリ実行結果画面で選択したクライアントまたはメニュー選択後に「クライアント／グループ選択」ダイアログボックスに指定したクライアントに対して有効になります。

「クライアント／グループ選択」ダイアログボックスは、クエリ実行結果画面等でクライアントが選択されていない場合のみ表示されます。

詳細は「14.6.1 監視の設定」を参照してください。



● *** クライアント/グループ選択**

障害監視設定を行うクライアントを指定するかグループを指定するかを選択します。

● *** クライアント/グループ名**

障害監視設定を行うクライアントを指定します。

● **「設定」・「基本タイマ/倍率」**

クライアントにおける基本タイマを設定します。

ここで設定した値は、CM管理ツールのクエリ実行結果画面で選択したクライアントまたはメニュー選択後に「クライアント/グループ選択」ダイアログボックスに指定したクライアントに対して有効になります。

「クライアント/グループ選択」ダイアログボックスは、クエリ実行結果画面等でクライアントが選択されていない場合のみ表示されます。

詳細は「6.2.4 設定メニュー」を参照してください。

● **「設定」・「構成情報収集契機」**

クライアントにおいて、構成情報を収集する周期・時間・契機を設定します。

クライアントでは、ここで設定した周期・時間・契機の組み合わせにより、構成情報を収集し、変更があったものについてマネージャに通知します。

ここで設定した値は、CM管理ツールのクエリ実行結果画面で選択したクライアントまたはメニュー選択後に「クライアント/グループ選択」ダイアログボックスに指定したクライアントに対して有効になります。

「クライアント/グループ選択」ダイアログボックスは、クエリ実行結果画面等でクライアントが選択されていない場合のみ表示されます。

詳細は「6.2.4 設定メニュー」を参照してください。

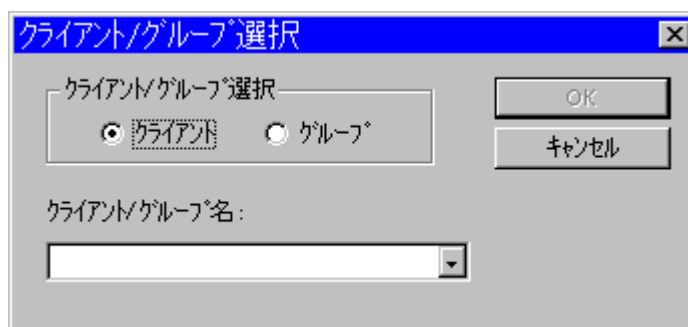
● **「設定」・「クライアント機能設定」**

クライアントの機能を設定します。

ここで設定した値は、CM管理ツールのクエリ実行結果画面で選択したクライアントまたはメニュー選択後に「クライアント／グループ選択」ダイアログボックスに指定したクライアントに対して有効になります。

「クライアント／グループ選択」ダイアログボックスは、クエリ実行結果画面等でクライアントが選択されていない場合のみ表示されます。

詳細は「6.2.4 設定メニュー」を参照してください。



- 「設定」・「クライアント障害監視設定(ハードウェア)」

クライアントにおけるハードウェア障害の監視を行う項目を設定します。

ここで設定した値は、CM管理ツールのクエリ実行結果画面で選択したクライアントまたはメニュー選択後に「クライアント／グループ選択」ダイアログボックスに指定したクライアントに対して有効になります。

「クライアント／グループ選択」ダイアログボックスは、クエリ実行結果画面等でクライアントが選択されていない場合のみ表示されます。

詳細は「6.2.4 設定メニュー」を参照してください。

- 「設定」・「OFF state Alert設定」

OFF state Alertの設定を行います。OFF state Alertは、クライアントの電源がOFFの状態でも、筐体の開閉、CPU/LANケーブル抜けを常時監視してサーバ(管理者)に通知する機能を提供します。

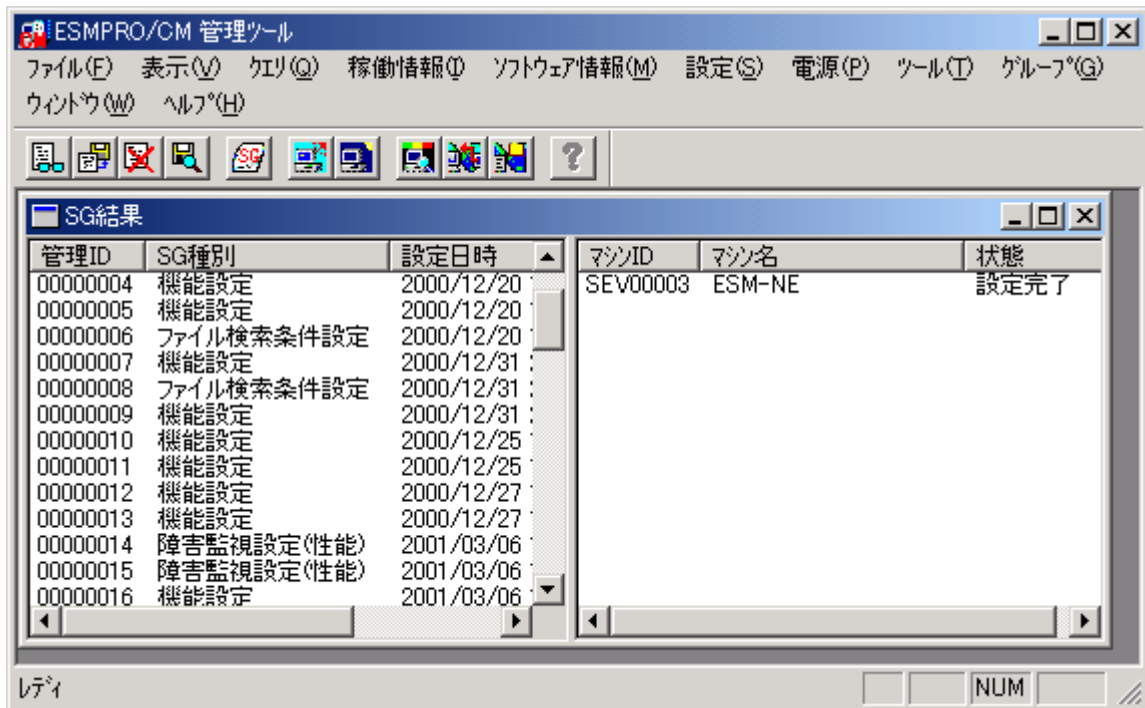
ここで設定した値は、CM管理ツールのクエリ実行結果画面で選択したクライアントまたはメニュー選択後に「クライアント／グループ選択」ダイアログボックスに指定したクライアントに対して有効になります。

「クライアント／グループ選択」ダイアログボックスは、クエリ実行結果画面等でクライアントが選択されていない場合のみ表示されます。

詳細は「6.2.4 設定メニュー」を参照してください。

- 「設定」・「SG設定結果」

「設定」メニューから設定した各種SG設定のクライアントへの設定状況を一覧表示します。



- 「設定」・「SG一覧表示」

SG一覧表示を選択すると「クライアント & SG選択」ダイアログボックスが表示され、選択したクライアントに設定されているSG値が一覧表示されます。



*** SG種別選択**

全てのSGを表示するか、または、選択したSG項目のみ表示するかを選択します。

選択可能なSG項目は以下のとおりです。

「クライアント障害監視設定(性能)」

「基本タイマ／倍率」

「構成情報収集契機」

「クライアント機能設定」

「クライアント障害監視設定(ハードウェア)」

「OFF state Alert設定」

* クライアント選択

SG値を表示するクライアントを選択します。

[全クライアント]

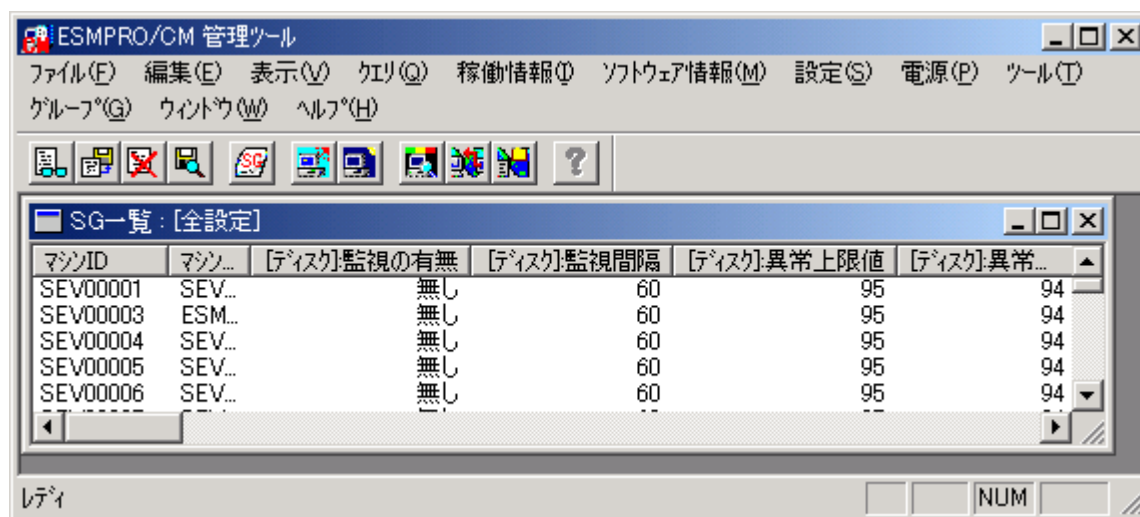
ClientManagerで管理している全てのクライアントのSG値を表示します。

[選択したクライアント]

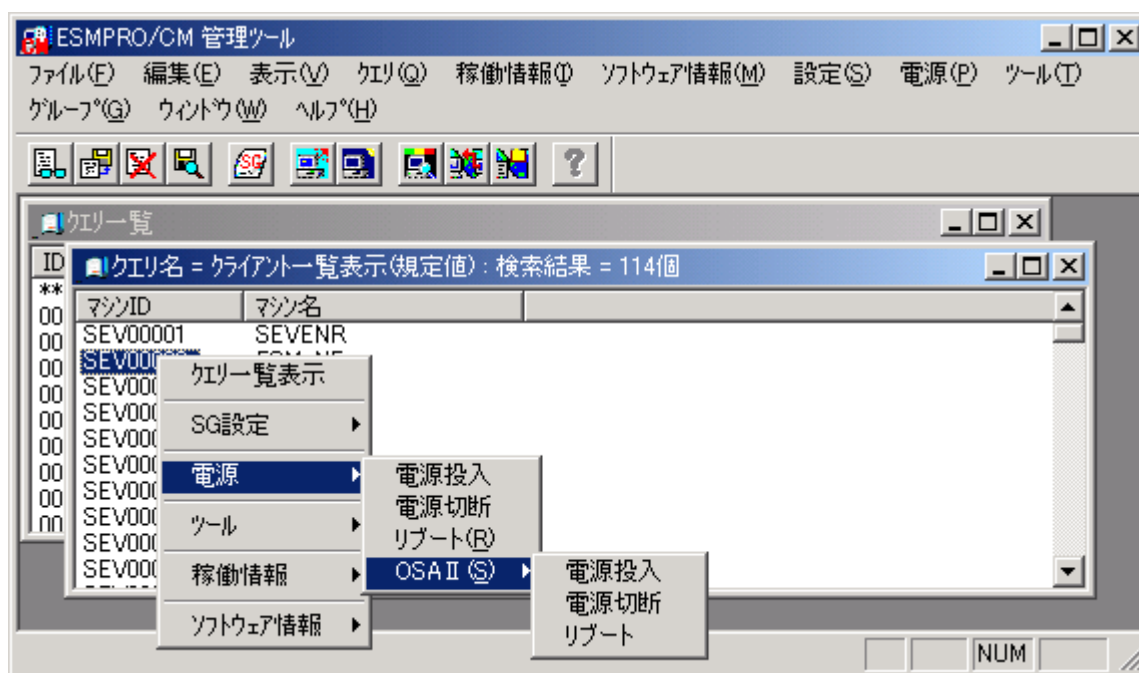
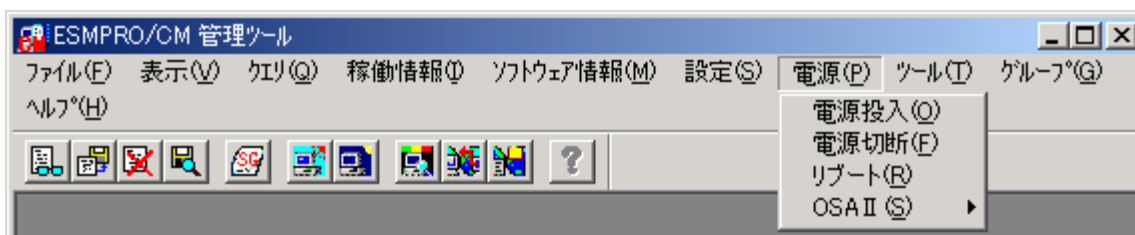
「表示」リストボックスに一覧表示されているクライアントのSG値を表示します。

「表示」リストボックスにクライアントを追加するには、追加したいクライアントを「非表示」リストボックスで選択し、「追加」ボタンを押してください。

また、「表示」リストボックスからクライアントを削除するには、削除したいクライアントを「表示」リストボックスで選択し、「削除」ボタンを押してください。



7.4.8 「電源」メニュー

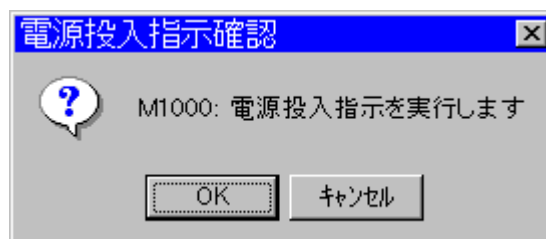


● 「電源」・「電源投入」

選択したクライアントの電源を投入します。

電源投入を行うクライアントは、「クエリー実行結果」ウィンドウ等の画面で選択した状態のクライアントまたは、「クライアント／グループ選択」ダイアログボックスで選択したクライアントです。

「電源投入」を選択すると、電源投入の実行可否の問い合わせを行うメッセージボックスが表示されます。

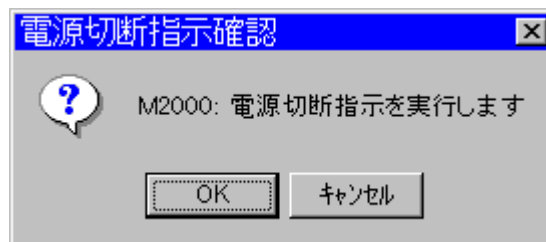


- 「電源」・「電源切断」

選択したクライアントの電源を切断します。

電源切断を行うクライアントは、「クエリ実行結果」ウィンドウ等の画面で選択した状態のクライアントまたは、「クライアント/グループ選択」ダイアログボックスで選択したクライアントです。

「電源切断」を選択すると、電源切断の実行可否の問い合わせを行うメッセージボックスが表示されます。

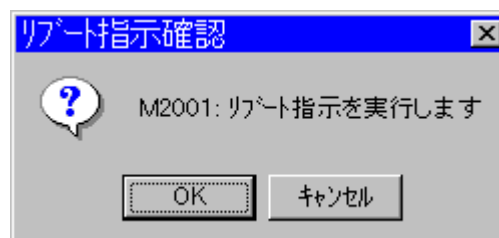


- 「電源」・「リブート」

選択したクライアントをリブートします。

リブートを行うクライアントは、「クエリ実行結果」ウィンドウ等の画面で選択した状態のクライアントまたは、「クライアント/グループ選択」ダイアログボックスで選択したクライアントです。

「リブート」を選択すると、リブートの実行可否の問い合わせを行うメッセージボックスが表示されます。



- 「電源」・「OSA II」・「電源投入」

選択したクライアントの電源を、OSA II（Off State Alert II）の機能を利用して投入します。

電源投入を行うクライアントは、「クエリ実行結果」ウィンドウ等の画面で選択した状態のクライアントまたは、「クライアント/グループ選択」ダイアログボックスで選択したクライアントです。

「電源投入」を選択すると、電源投入の実行可否の問い合わせを行うメッセージボックスが表示されます。

- 「電源」・「OSA II」・「電源切断」

選択したクライアントの電源を、OSA IIの機能を利用して切断します。

電源切断を行うクライアントは、「クエリ実行結果」ウィンドウ等の画面で選択した状態のクライアントまたは、「クライアント/グループ選択」ダイアログボックスで選択したクライアントです。

「電源切断」を選択すると、電源切断の実行可否の問い合わせを行うメッセージボックスが表示されます。

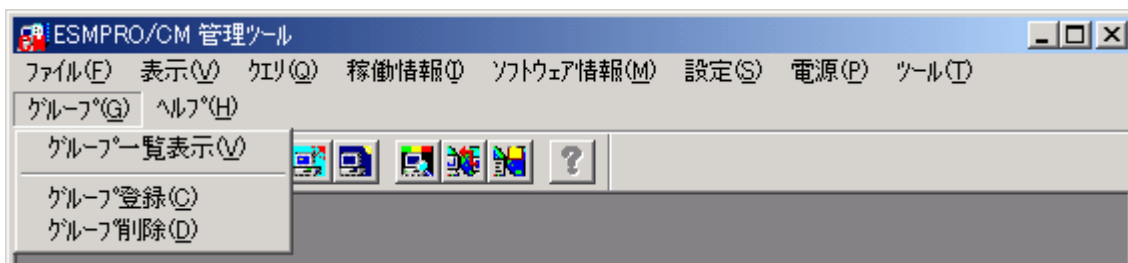
- 「電源」・「OSA II」・「リブート」

選択したクライアントを、OSA IIの機能を利用してリブートします。

リブートを行うクライアントは、「クエリ実行結果」ウィンドウ等の画面で選択した状態のクライアントまたは、「クライアント/グループ選択」ダイアログボックスで選択したクライアントです。

「リブート」を選択すると、リブートの実行可否の問い合わせを行うメッセージボックスが表示されます。

7.4.9 「グループ」メニュー

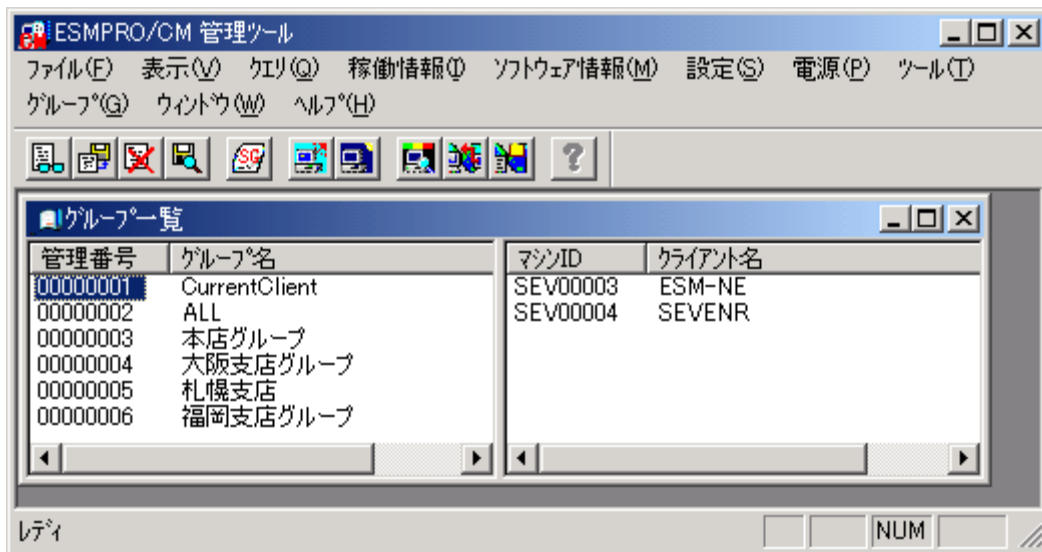


- 「グループ」・「グループ一覧表示」

登録されているグループを一覧表示します。

画面左に表示されるグループを選択すると、グループに登録されているクライアントの一覧が画面右に表示されます。

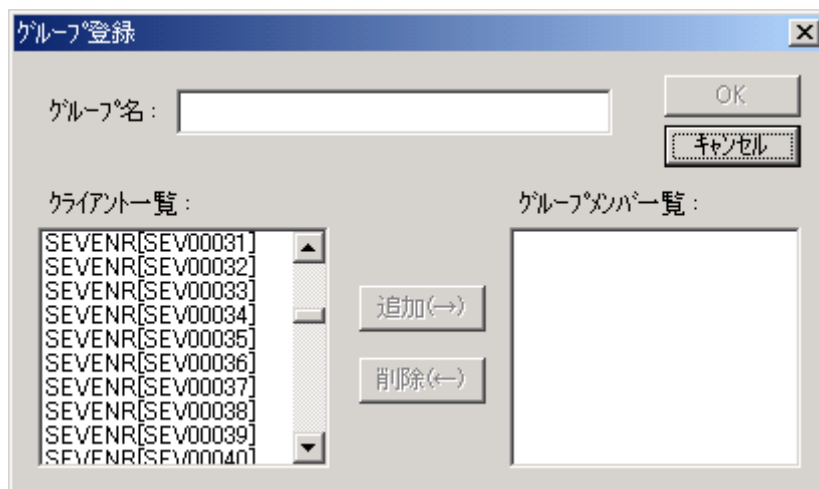
グループを選択した状態で、電源投入／切断やツールを起動すると、グループに登録されているクライアントに対し、指定した機能が実行されます。



● 「グループ」・「グループ登録」

グループの新規登録を行います。

「グループ登録」を選択すると、「グループ登録」ダイアログボックスが表示されます。



* グループ名

グループを識別するための名前を入力します。

* クライアント一覧

起動直後は、マネージャで管理している全クライアントが一覧表示されます。

「クライアント一覧」リストボックスに表示されているクライアントを選択し、「追加」ボタンを押すと、「グループメンバー一覧」リストボックスに選択したクライアントが移動します。

* グループメンバー一覧

グループのメンバとして管理されるクライアントが一覧表示されます。

「グループメンバー一覧」リストボックスに表示されているクライアントを選択し、「削除」ボタンを押すと、「クライアント一覧」リストボックスに選択したクライアントが移動します。

【補足】

グループの更新を行う場合は、「グループ一覧」ウィンドウで更新するグループをダブルクリックしてください。選択したグループの情報が入力された状態で「グループ登録」ダイアログボックスが表示されます。

「クエリ実行結果」ウィンドウ等でクライアントを選択した状態で「グループ」メニューの「グループ登録」を選択すると、「グループメンバー一覧」リストボックスに、「クエリ実行結果」ウィンドウ等で選択したクライアントがダイアログボックス起動時から追加されて表示されます。

● 「グループ」・「グループ削除」

グループの削除を行います。

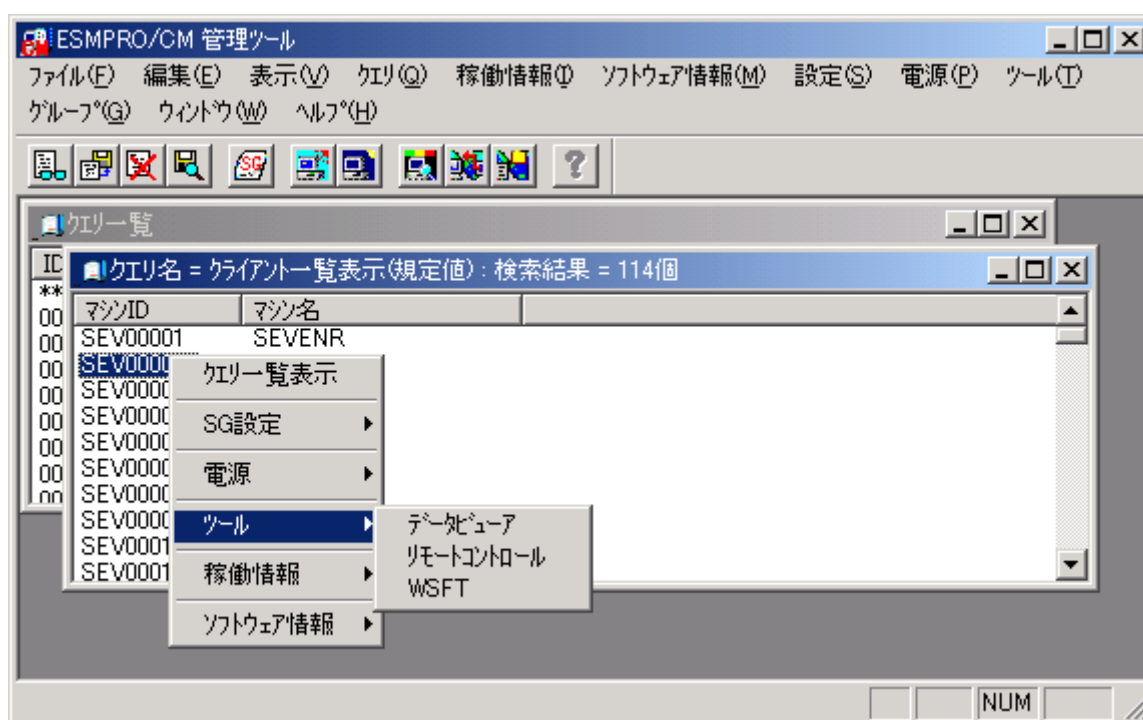
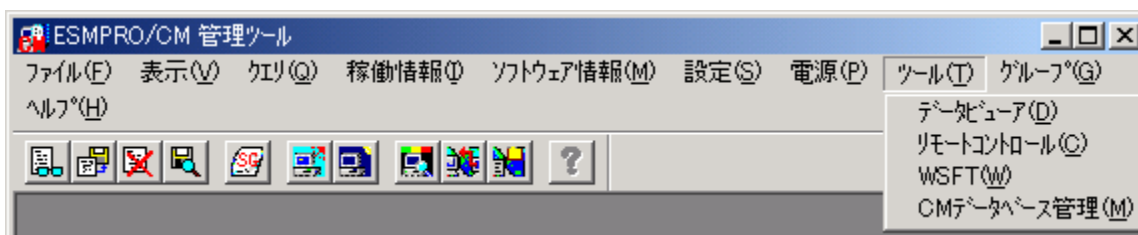
「グループ削除」を選択すると、「グループ削除」ダイアログボックスが表示されます。



* グループ名

削除するグループを選択します。

7.4.10 「ツール」メニュー



- 「ツール」・「データビューア」

クエリ実行結果画面で選択しているクライアントの情報をデータビューアで参照します。

- 「ツール」・「リモートコントロール」

クエリ実行結果画面で選択しているクライアントをリモートコントロールします。リモートコントロールは、WinShareを使用して行います。そのため、リモートコントロールを実行するためには各種設定が必要です。WinShareの設定については、WinShareオンラインヘルプ または「10 WinShare」を参照してください。

- 「ツール」・「WSFT」

WSFTを起動します。WSFTについては、「11.WSFT」を参照してください。











- 「ツール」・「CMデータベース管理」

ClientManagerで使用するデータベース中に格納している構成情報等のデータの削除等を行う「DBメンテナンスツール」を起動します。

7.5 ツールバー

ツールバーはメニューの各項目を簡単に呼び出すことができるボタンの集まりです。以下にツールバーに設定された各ボタンについて説明します。



-  : 「クエリ」 ・ 「クエリ 一覧表示」
-  : 「クエリ」 ・ 「クエリ作成」
-  : 「クエリ」 ・ 「クエリ削除」
-  : 「クエリ」 ・ 「クエリ実行」
-  : 「設定」 ・ 「SG一覧表示」
-  : 「電源」 ・ 「電源投入」
-  : 「電源」 ・ 「電源切断」
-  : 「ツール」 ・ 「データビューア」
-  : 「ツール」 ・ 「リモートコントロール」
-  : 「ツール」 ・ 「WSFT」

7.6 CM データベース管理ツール(DB メンテナンスツール)

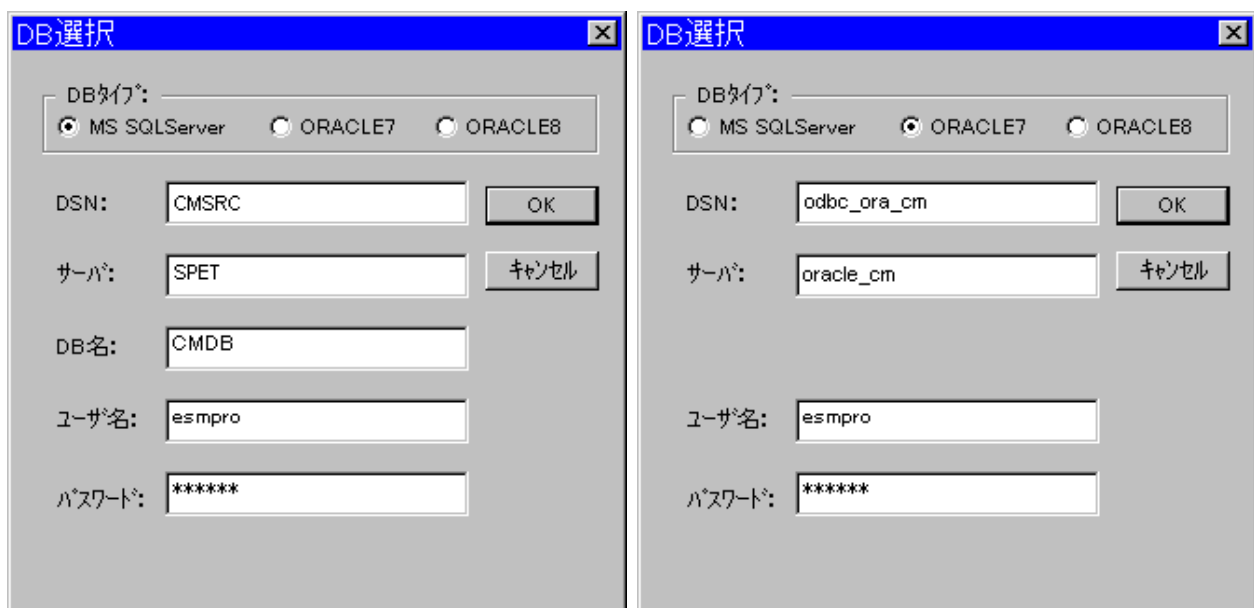
7.6.1 CM データベース管理ツールの起動

CM管理ツールの「ツール」メニューの「CMデータベース管理」を選択することでCMデータベース管理ツールを起動することができます。

7.6.2 DB サーバと接続

CMデータベース管理ツールを起動すると「DB選択」ダイアログボックスが表示されます。

「DB選択」ダイアログボックスにClientManagerで使用しているデータベースのDBタイプ、データソース名、サーバ名、データベース名、ユーザ名及びパスワードを指定します。



* DBタイプ

ClientManagerで使用しているDBサーバの種類を選択します。

CMデータベースエンジンをご利用の場合はMS SQLServerを選択します。

* DSN

DBサーバに接続するために使用するODBCドライバのデータソース名を指定します。

* サーバ

SQL Serverの場合：

DBサーバが動作しているサーバマシン名を指定します。

Oracleの場合：

Oracleに接続するために使用するホスト文字列（データベース別名）を指定します。

*** DB名**

ClientManagerで使用しているデータベースの名前を指定します。

SQL Serverの場合のみ入力する必要があります。

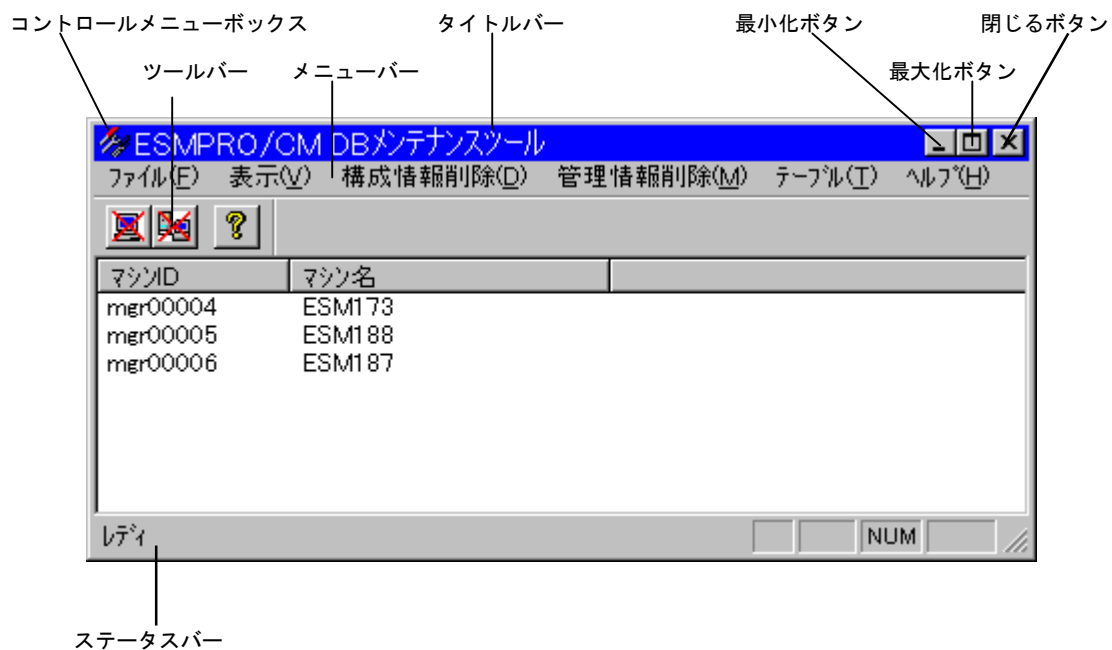
*** ユーザ名**

DBサーバに接続するために使用するユーザ名を指定します。

*** パスワード**

DBサーバに接続するために使用するパスワードを指定します。

7.6.3 メインフレーム



■コントロールメニューボックス

このボックスをマウスで左クリックすると、ウィンドウに対する操作を行うメニューが表示されます。コントロールメニューでは、ウィンドウの大きさの変更や移動、アプリケーションの切り替え、ウィンドウを閉じるなどの操作が行えます。

■タイトルバー

タイトルが表示されます。

■最小化ボタン

CMデータベース管理ツールのウィンドウをアイコンの状態にします。

■最大化ボタン

CMデータベース管理ツールのウィンドウサイズを画面全体に広げます。また、画面全体に広がった状態で押すと、元のウィンドウサイズに戻ります。

■閉じるボタン

CMデータベース管理ツールを閉じます。

■メニューバー

メニューバーにはCMデータベース管理ツールで利用できる機能がグループ別に示されています。それぞれの機能はドロップダウンメニューで選択できます。

■ツールバー

CMデータベース管理ツールで全般的に使用する機能をボタンとして表示します。ボタンを選択すると対応した機能を実行します。

■ステータスバー

作業中の機能説明等を表示します。

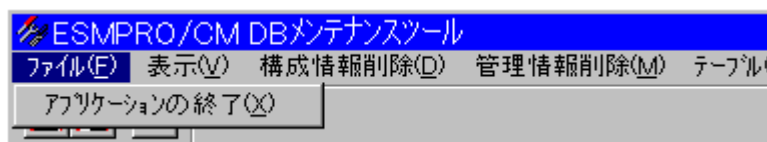
7.6.4 メニュー

次の6種類のメニューがあります。

- 1) ファイル
- 2) 表示
- 3) 構成情報削除
- 4) 管理情報削除
- 5) テーブル
- 6) ヘルプ

それぞれのメニューの機能について説明します。

7.6.4.1 「ファイル」メニュー



●「ファイル」・「アプリケーションの終了」

CMデータベース管理ツールを終了します。

7.6.4.2 「表示」メニュー



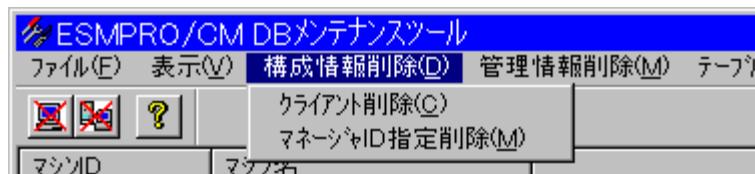
- 「表示」・「ツールバー」

ツールバーの表示／非表示を切り換えます。

- 「表示」・「ステータスバー」

ステータスバーの表示／非表示を切り換えます。

7.6.4.3 「構成情報削除」メニュー

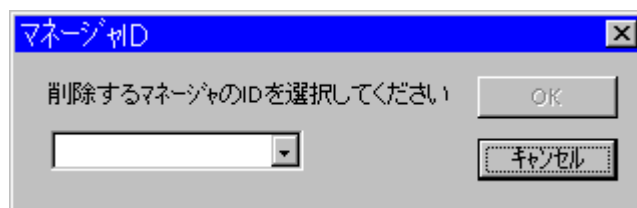


- 「構成情報削除」・「クライアント削除」

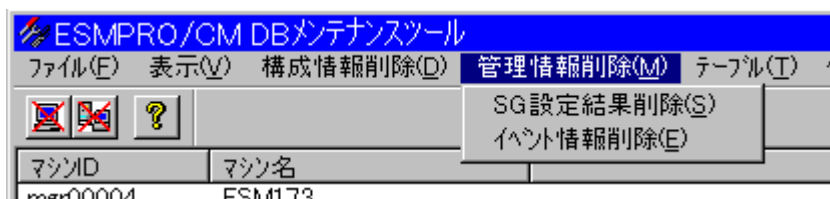
メインフレーム上で選択しているクライアントの構成情報をClientManagerのデータベースから削除します。

- 「構成情報削除」・「マネージャID指定削除」

「マネージャID」ダイアログボックスで選択したマネージャで管理している全てのクライアントの構成情報をClientManagerのデータベースから削除します。



7.6.4.4 「管理情報削除」メニュー



- 「管理情報削除」・「SG設定結果削除」

CMデータビューアまたはCM管理ツールで設定したクライアントのSG設定の履歴情報をCMのデータベースから削除します。

削除するSG設定の履歴情報は「SG結果削除」ダイアログボックスで選択します。



- * 「SG結果一覧」 リスト

ダイアログボックスが表示された時に、データベース中に格納されているSG設定の履歴情報が一覧表示されます。

リスト中のSG設定履歴を選択し、「追加」ボタンを押すと、「削除するSG結果」リストに選択したSG設定履歴が移動します。

- * 「削除するSG結果」 リスト

削除するSG設定の履歴情報が一覧表示されます。

リスト中のSG設定履歴を選択し、「削除」ボタンを押すと、「SG結果一覧」リストに選択したSG設定履歴が移動します。

- 「管理情報削除」・「イベント情報削除」

ClientManagerのデータベース中に格納しているクライアントのイベント情報を削除します。

削除するイベントは「イベント削除」ダイアログボックスで選択します。



*** 全て削除**

データベース中にある全てのイベント情報を削除します。

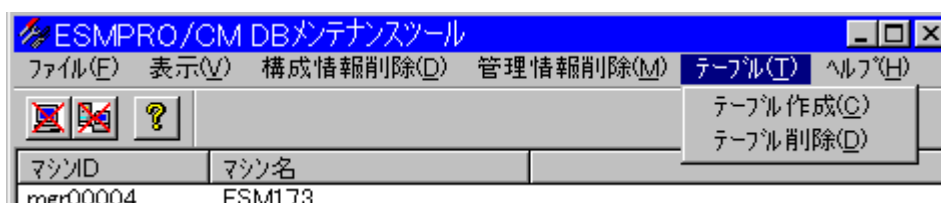
*** マシンを指定して削除**

コンボボックスで選択したマシンに関するイベント情報をデータベースから全て削除します。

*** 選択したイベントを削除**

リスト中で選択しているイベント情報をデータベースから削除します。

7.6.4.5 「テーブル」メニュー



● 「テーブル」・「テーブル作成」

ClientManagerで使用するテーブルをデータベースに作成します。

作成するテーブルは「テーブル選択」ダイアログボックスで指定します。



＊ 「テーブル一覧」 リスト

ダイアログボックスが表示された時に、ClientManagerで使用するテーブルが一覧表示されます。

リスト中のテーブル名を選択し、「追加」ボタンを押すと、「選択したテーブル」リストに選択したSG設定履歴が移動します。

＊ 「選択したテーブル」 リスト

作成または削除するテーブルが一覧表示されます。

リスト中のテーブル名を選択し、「削除」ボタンを押すと、「テーブル一覧」リストに選択したSG設定履歴が移動します。

● 「テーブル」 ・ 「テーブル削除」

メインフレーム上で選択しているクライアントの構成情報をClientManagerのデータベースから削除します。

7.6.5 ツールバー

ツールバーはメニューの各項目を簡単に呼び出すことができるボタンの集まりです。以下にツールバーに設定された各ボタンについて説明します。



： 「構成情報削除」 ・ 「クライアント削除」



： 「構成情報削除」 ・ 「マネージャID指定削除」